

土間コンクリートの「色むら」のはなし

— 打ったばかりの、まだら模様。これは失敗？ —

この資料の流れ > ① その不安 > ② なぜ出るのか > ③ 時間がたつと > ④ 自然な表情 > ⑤ 見分け方 > ⑥ まとめ

① その不安は、自然なお気持ちです

「せっかくの新しい土間が、場所によって色がまだら...手抜きされたの？」
— そう不安になるお気持ち、よく分かります。こうしたご相談は、これまで何度もいただきました。その多くは自然に起こることなので、なぜそうなるのか、順を追ってお話します。



打ったばかりの土間の、まだらな色。「これ、大丈夫かな？」というお気持ちから、この説明は始まります。

② なぜ色むらが出るのか — 乾く速さの違いです



同じ土間でも、日なた側は白っぽく、影のかかる側は濃いめに。乾く速さの違いが、色の違いになります。

コンクリートは、セメント・砂・砂利・水を混ぜた自然の材料の集まりです。早く乾いたところは白っぽく、ゆっくり乾いたところは濃いめに残り、色むらが出ることがあります。日なたと日かげ、風の当たり方でも変わります。

乾く速さの違い

日なた／日かげ・風・気温

材料のわずかな差

セメント・砂・砂利

下地の違い

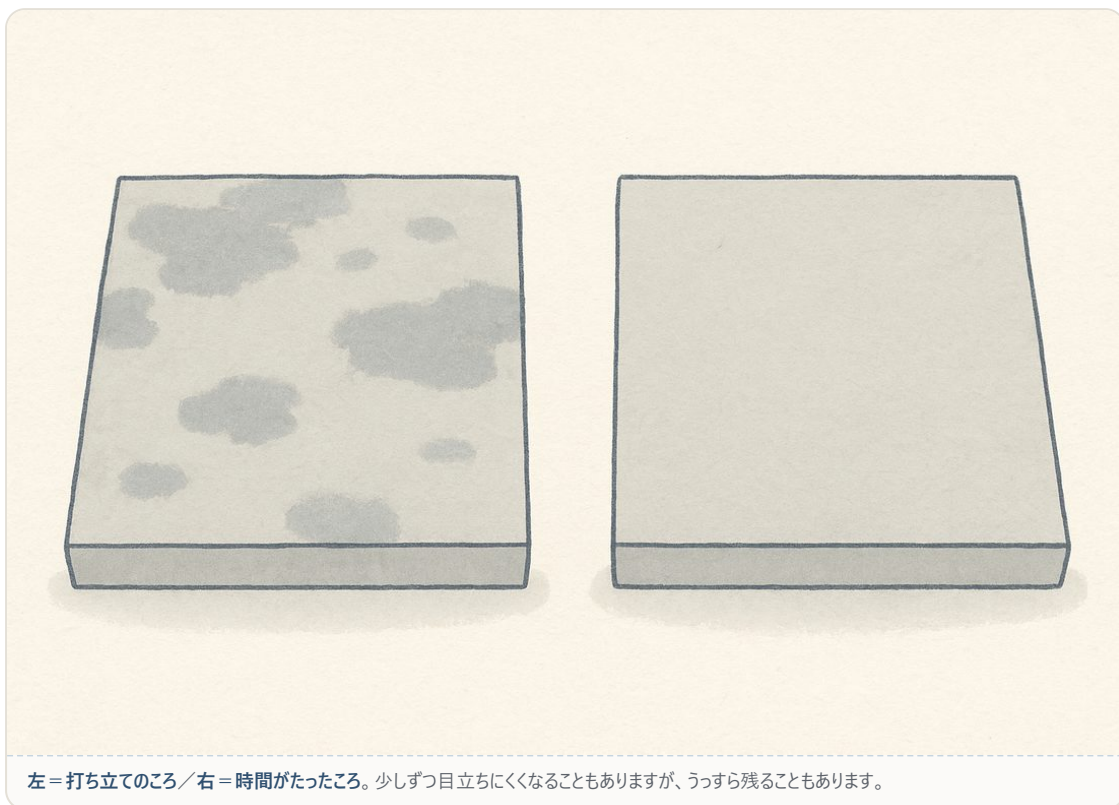
水の吸い込み方の差

仕上げのタイミング

コテを当てる時間の差

3 時間がたつと、やわらぐことも。ただ、うっすら残ることもあります

打ち立てのころは色の濃い・薄いのがはっきりしていても、乾いて落ち着いてくると、少しずつ目立ちにくくなっていくことがあります。ただ、正直なところ、色むらがすっかり消えてしまうわけではなく、うっすら残ることも少なくありません。「必ずきれいに消えます」とまでは言えないのですが、打った直後の色だけで「失敗だ」と決めず、少し様子を見てあげてください。



4 多くは、コンクリートの“自然な表情”です

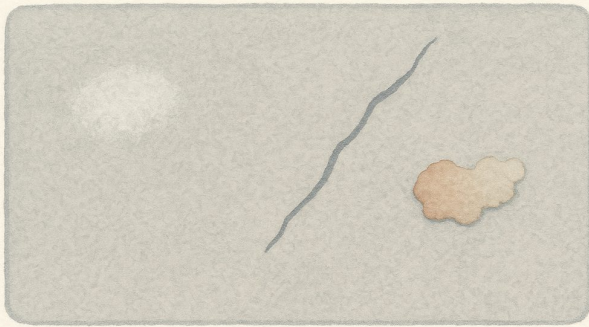
色むらの多くは、コンクリートの自然な表情のようなものです。見た目の話で、**丈夫さそのものに関わることは、ほとんどありません**（色が残るかどうかと、しっかりしているかどうかは、別のことなんです）。

コテで仕上げる手仕事なので、色むらをまったくのゼロにするのは難しいのですが、その分、仕上げのときは表面の乾き具合を見ながら、できるだけ均一になるように手をかけています。



まだらの出方を、近くでじっくり見る。「これは自然な表情か、一度見ておいたほうがよいか」を、現場で見分けます。

5 見分け方 — 様子見でOK / 見てもらうと安心



白い粉・細い筋・表面のポロポロ。色むらと一緒にこれらがあるときは、見ておいたほうが安心です。

次のようなサインが色むらと一緒に出ているときは、一度見てもらうと安心です。
色の濃い・薄いだけなら、様子見でよいことがほとんどです。

サイン	様子見でよいことが多い	見てもらうと安心
色の濃淡	濃い・薄いのムラだけ	時間がたっても濃い筋がはっきり残る
白い粉	出ていない	白い粉（白華）と一緒に浮いている
表面	なでても粉がつかない	表面がポロポロ取れる・粉が手につく

※これは現物を見ないと確かなことは言えないので、あくまで一次的な目安です。気になるサインがあるときは、早めに一度見てもらうと安心です。

6 多くは、心配のいらぬ自然な表情です

ここまで見てきたとおり、土間コンクリートの色むらは、その多くが乾く速さの違いによる自然なものです。打った直後の色だけで「失敗だ」と決めず、乾いて落ち着くのを少し待ってあげてください。

どうしても色を揃えたいときは、塗装・着色という手もあります（費用はかかります）。色むらの仕組みを知っておくと、必要以上に心配せずに済みます。



色むらの多くは、コンクリートの自然な表情。仕組みを知っておくと、安心して見守れます。